



東日本を襲った台風19号について考える 防災意識・対策を変えなければならない!

台風19号による豪雨で、河川の堤防が壊れる「決壊」が、52河川の73か所にも及び(10/16現在)、また、水が堤防を乗り越える「越水」による氾濫は、国や15の都県が管理する延べ142の河川で確認されました(10/13現在)。被害の実態がまだまだ把握されず、日を追うごとに被害が拡大している状況です。被災者の落胆と今後の生活への不安を想像すると、言葉を失ってしまいます。



【水没した秋ヶ瀬公園】

災害対策にたくさんのお金を

国は、国土と国民を守るとして軍備の増強を図っています。しかし、他国の脅威は話し合いで防ぐことができますが、台風は来るのがわかっていながら止めることができません。しかも、最近の台風は大型化しています。国は、防災の取り組み・台風に対する備えこそ柱にして、国民の命と生活を守ってほしいと思います。

末尾に示したように、軍備には巨額の税金を投入しておりますが、防災関係の予算はその4分の1にすぎません。これではいくら何でも少なすぎます。

最近、大雨・洪水警戒レベルを5段階で設定して、『自分の命は自分で守れ、逃げろ、逃げろ』という防災対策を内閣府も奨励するようになりました。もちろんこうした意識づけは大切ですが、一方でハードの整備をさらに進めないままでは、命を守ることはできません。

被災者支援救済のための被災者生活支援制度・支援金の支給額もお粗末なものです。

桜区各地でも床上浸水被害・遅れている堤防改修

桜区でも、新開・桜田・道場・上大久保・下大久保・大久保領家・田島などの一部で床上浸水の被害を受けました。避難した人は約2000名。桜区役所に問い合わせたところ鴨川(1級河川)など、荒川の支流の越水が原因とのことでした。35年ほど前の被害と原因は同じでした。荒川が決壊する危険性もあり、とても不安な夜を過ごしました。

日本の一級河川の堤防改修は、未だ66%で実施されているにすぎません。これからも台風が大型化するの予想でき

ること。現在日本が持っている技術を総動員して堤防の改修を進めることが必要です。また、今回の水害では、支流での越水が起り、大きな被害につながりました。荒川とその支流の関係についても専門的な知識を総動員して、支流の越水を防ぐ手立てを考えてもらいたいと思います。また、被害の状況を見てみると、洪水ハザードマップ

(注)に示されていた通りなので、浸水する可能性がある地域については、新築する際の盛り土・土台高の規定など、安全な地域を作るための行政の取り組みも必要なのではないでしょうか。

(注)平成28年に国土交通省が指定・公表した洪水浸水想定区域に基づき、さいたま市は荒川・入間川・鴨川・鴻沼川流域の洪水・浸水予想マップを公表しています。

自然の力を見直そう

今回私たちは、自然の威力に圧倒されました。治水対策には、この自然の力を見直すことが必要だと思います。まず保水力を持っている森林の再生を真剣にすすめるべきだと思います。氾濫した水は茶色い濁流です。被災地域ではこの泥水に苦しめられています。これは、荒れている森林に降った雨が表土を削り取って川に流れ込んでいることを示しているそうです。河川敷の田んぼや公園は、荒川の決壊を止める働きをしてくれました。かつては、川の周りには田んぼでしたが、そこにどんだん家が建ち、保水機能を持った田んぼの存在もおろそかにされています。遠回りのようでも、第一次産業—農業や林業の見直しが重要なのではないのでしょうか。

◎被災者生活支援制度・支援金の支給額

①住宅の被害程度に応じて支給する支援金（基礎支援金）

全壊100万円 解体100万円 長期避難100万円 大規模半壊50万円

②住宅の再建方法に応じて支給する支援金（加算支援金）

建築・購入200万円 補修100万円 賃借（公営住宅以外）50万円

◎水管理・国土保全局関係予算

治水事業等関係費 1兆413億円

(内訳：河川関係8669億円 砂防関係1564億円 海岸関係180億円)

◎2020年度防衛費概算要求 5兆3000億円

最新鋭のステルス戦闘機F35A 6機 916億円

早期警戒機E2D 2機 544億円

ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」 2基 2352億円

米軍への思いやり予算 年間2000億円

辺野古・米軍新基地の建設費用関係 3兆円

オスプレー 17機 3800億円

核兵器廃絶に熱い思い

第6回桜区原爆絵画展開く

今年で第6回目となる原爆絵画展は、8月15日（木）から17日（土）にかけて、桜区プラザウエスト1階ギャラ

リーにて開催しました。

被爆74周年原水爆禁止世界大会が、8月5日から9日にかけて開催された広島

・長崎大会で、両市長は被爆国であるにもかかわらず、核兵器禁止条約への署名をしない政府に対し、唯一の被爆国として核廃絶に向けて一層の指導力を発揮するように求めました。

一方、新聞でも大きく取り上げられていますが、愛知県で8月1日から10月14日まで、国際芸術祭「愛知トリエンナーレ2019」が開催されました。しかし、企画展「表現の不自由展・その後」に出展された、元従軍慰安婦を題材とする「平和の少女像」などをめぐって、わずか3日でこの企画展示が中止されるという大変残念な事態となりました。（その後、終了前一週間だけ再開されました。）

こうした中で、連日の猛暑とお盆の狭間でどのくらいの方が来場してくれるのかを心配していました。でも、3日間に延べ282名の来観者があり、今年の

241名を大きく上回りました。特に親子連れや、女性の来場が目立ちました。カンパもたくさん寄せられ、続けることの大切さを改めて実感しました。

同じ時期に、東京新聞の企画「平和の俳句」が復活し、6812句の応募の中から入選30作が掲載されました。その一つに「普通に過ごす毎日がありがたい・それが平和」とありました。

私たちの何気ない日常の中に、平和の尊さを実感した熱い夏の原因絵画展でした。



第8回桜区市民講座

9月28日（土） 土合公民館

「日本経済 現下の本当の課題は何か」

講師：埼玉大学副学長 伊藤修さん

冒頭に先生は、“アベノミクスの成果として*円高から円安になった*株価が上がった*人手不足になった=雇用が増えた”の3点が言われているが、これらはみな外的な要因によるものであって、成果ではないということを説明してくださいました。

次に激しい人口減少や、極めて低い有配偶率、生産力の低下による需給ギャップの解消、最近の潜在成長率など、現在の問題点についてデータを示して説明をしていただきました。

これらの考察で明らかになったのは、縮小サイクルとそれによる社会の歪みです。所得の多少、正規・非正規の差で異なる有配偶者率は民族の再生産さえ破壊していることを示していました。アベノミクスの経済政策の異次元の金融緩和によって生み出されたのは国債バブルと財政破綻の二つのリスクです。

現下の本当の課題として次の2点を挙げていただきました。

- ①賃上げ・社会保障ミニマム（誰もが生活できる最低限の年金を支給する）・

投資誘導・教育研究の重視によって、削減→萎縮の悪循環をやめること。

- ②最低賃金引上げ（現在平均賃金の4割を6割まで上げる）・身分制撤廃・長時間労働、ブラック停止・税制は応能主義を實行すること

で社会の歪みをとめること。

日頃学生を相手に講義をなさっているので、経済の話を変分かなりやすく話していただきました。日ごろ感じている安倍政府に対する疑問を明らかにしていただき、大変有意義な講演会でした。

✂ 切り抜き帳 ✂

☆辺野古について何を知っていますかー。米ポートランド在住で日系2世の高校3年生与那嶺海椰さんが、名護市辺野古の沿岸部で進む辺野古新基地の工事を巡る現状をドキュメンタリー作品にまとめて発信している。校内で寄付を募り今年3月から4月に辺野古を再訪。海への土砂投入や、それに反対する人々の姿を船上

から追い、多くの人にインタビューして撮影は200時間に及んだ。映像はインターネットで8000回以上再生されて米各地で上映会も開かれている。

（東京新聞）

◎作品は【我した島ぬ宝（私たちの島の宝）】。作品名で検索すれば視聴することができます。

【会の活動報告】

8月28日(水) 事務局会議 栄和公民館

9月28日(土) 第8回桜区市民講座

「日本経済 現下の本当の課題は何か」(P3参照) 土合公民館

9月28日(土) 運営スタッフ会議 土合公民館

会員募集中！
カンパ大歓迎



【これからの予定】

10月20日(日) 学習会「福島の現状を語る」 堀切さとみさん 田島公民館

10月20日(日) 運営スタッフ会議 田島公民館

11月17日(日) 第4回総会 土合公民館

映画「どうする？日本の水道—自治・人権・公共財としての水を」

桜区平和を考える会 ホームページ

・パソコンでは『桜区平和』で検索

<http://spa.g1.xrea.com/>

・スマホでは右のQRコードから

<http://spa.g1.xrea.com/smh/>



振込口座：ゆうちょ銀行

店名：〇三八（読み：ゼロ・サン・ハチ）

店番：038

口座名義：サクラクハイワヲカンガエルカイ

口座番号：7561978

預金項目：普通預金

発行：桜区平和を考える会

（連絡先）

090-8588-4966（今井）

090-4433-7092（小高）

090-6120-3411（佐藤）